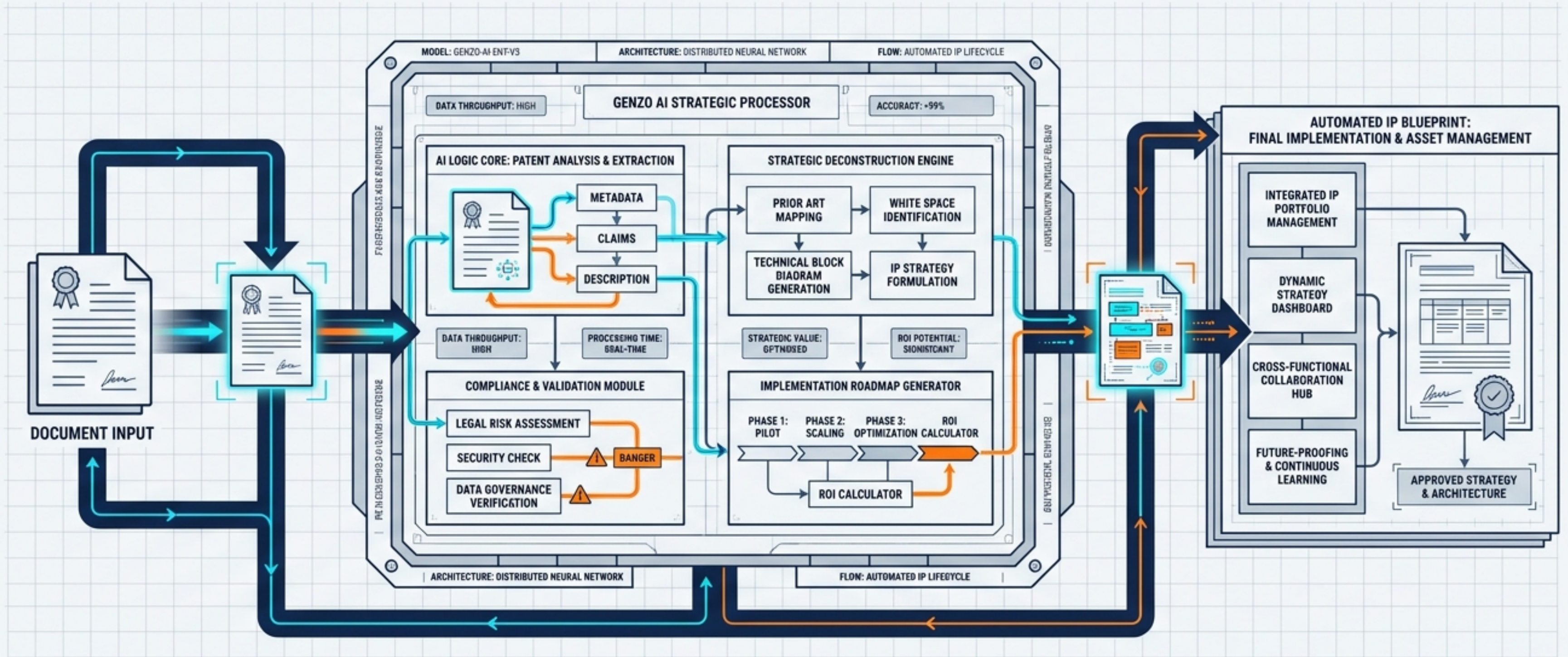


# The Automated IP Blueprint: 島津製作所「Genzo AI」の戦略的解体と知財AIの実装ロードマップ

エンタープライズ向け生成AI導入のケーススタディ・アーキテクチャ・ROI分析



[EXECUTIVE BRIEFING] / 知財・法務・戦略リーダー向け非公式分析レポート

# 導入インパクト：PoCの枠を超えた「実益」の創出

**8,000万円**

年間外部委託コストの削減  
(2025年度見込み)

[OUTSOURCING REDUCTION]

翻訳・中間処理等の外注費を直接削減。

**50%削減**

発明届出業務の工数

[WORKFLOW COMPRESSION]

研究者と知財部門間の手戻り・再ヒアリングを大幅減。

**90%削減**

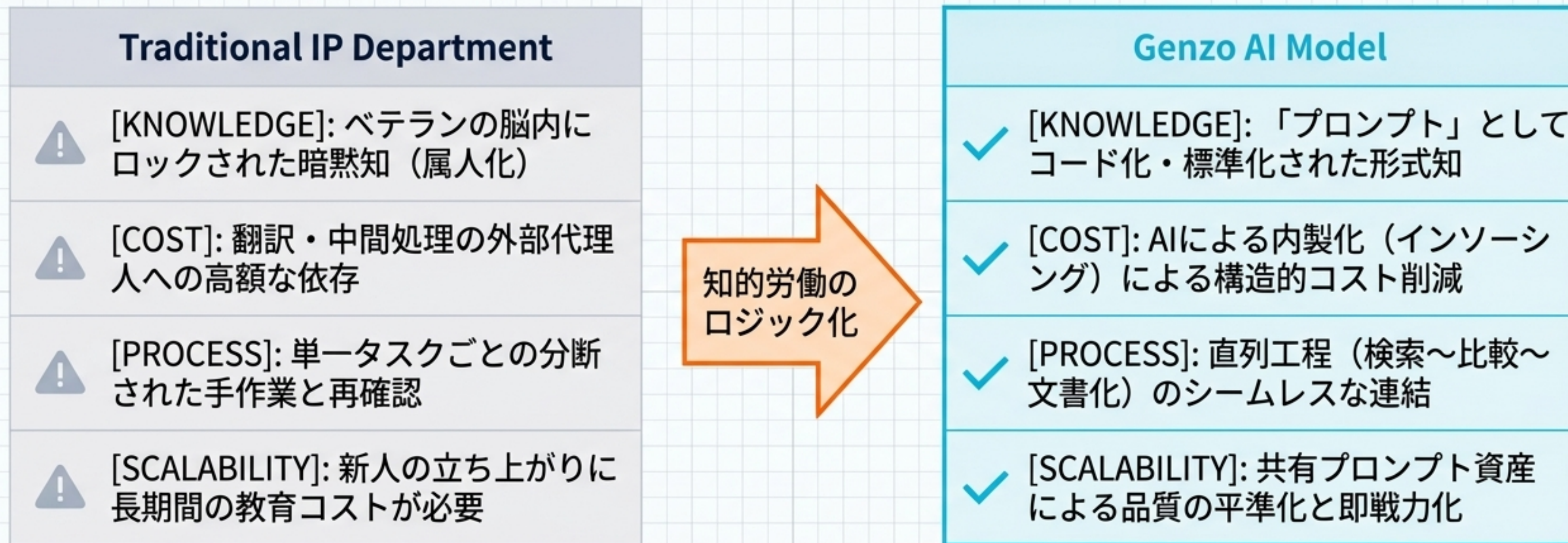
他社特許スクリーニング  
の手作業

[MANUAL LABOR ELIMINATION]

膨大な母集団特許の一次読解をAI化。

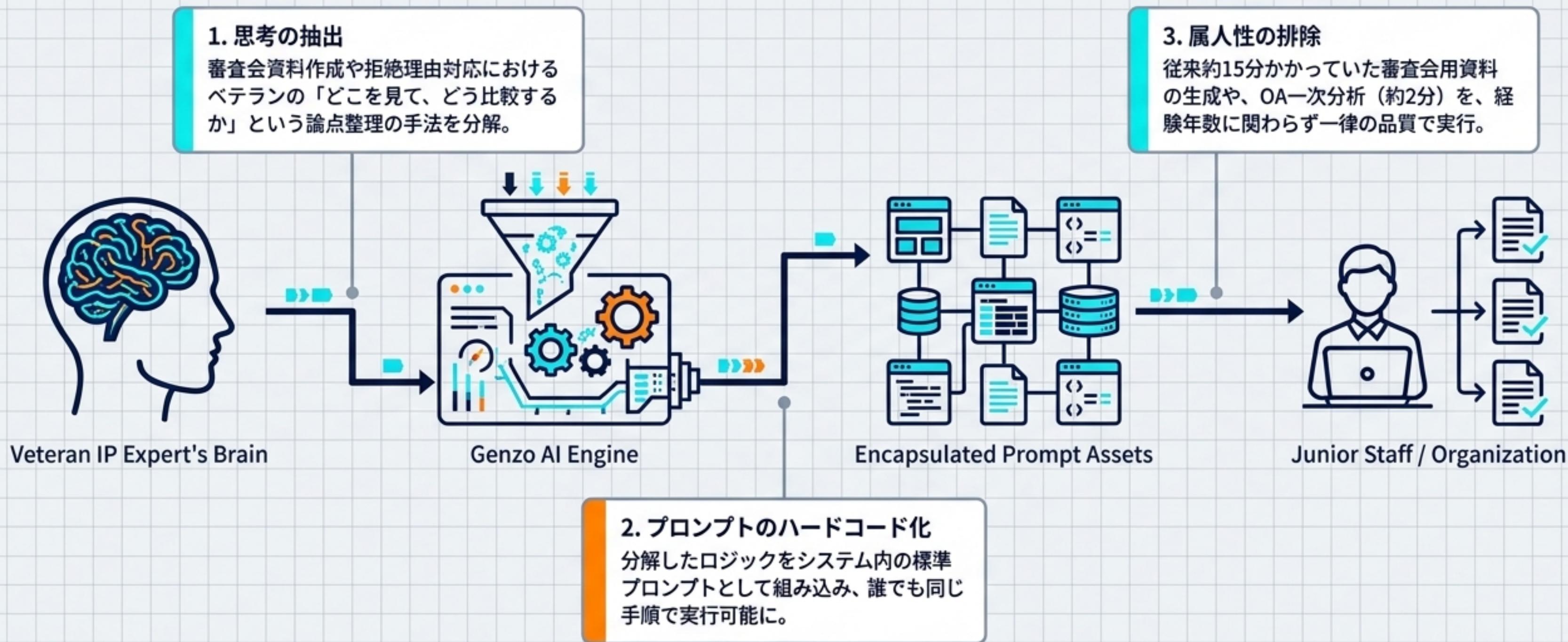
単なる「数十分の業務効率化」ではなく、知財ワークフロー全体の構造的なアウトソース削減とリードタイム短縮を実現するエンタープライズ成功事例。

# パラダイムシフト：「暗黙知のブラックボックス」から「共有資産」へ



「ロジック化可能な知的労働は生成AIに置換する」 —  
AI導入の本質はツール導入ではなく、ベテランの思考プロセスの資産化（Assetization）にある。

# コア・イノベーション：PromptOpsを通じた「判断ロジック」のシステム化



Genzo AIの真の価値は「AIの賢さ」ではなく、  
「再現可能な業務フローそのものをパッケージ化したこと」にある。

# システム・アーキテクチャ：汎用LLMを実務レベルへ引き上げる多層構造

Layer 1

Document Input UI - 開発資料、OA通知、特許PDF等の限定的入力（ノイズ削減）。

Layer 2

Prompt Asset Layer - タスク別に最適化された入力制御と細粒度指示の実行基盤。

Layer 3

Model Routing (The Core)

OpenAI (GPT-4o API) - 請求項の全件自動比較等に活用。

Google (Gemini API) - 翻訳品質の向上等、タスクに応じたモデル選択。

Layer 4

External Integrations - 連携外部DB（FTO検索～一次スクリーニングの自動実行基盤）。

Layer 5

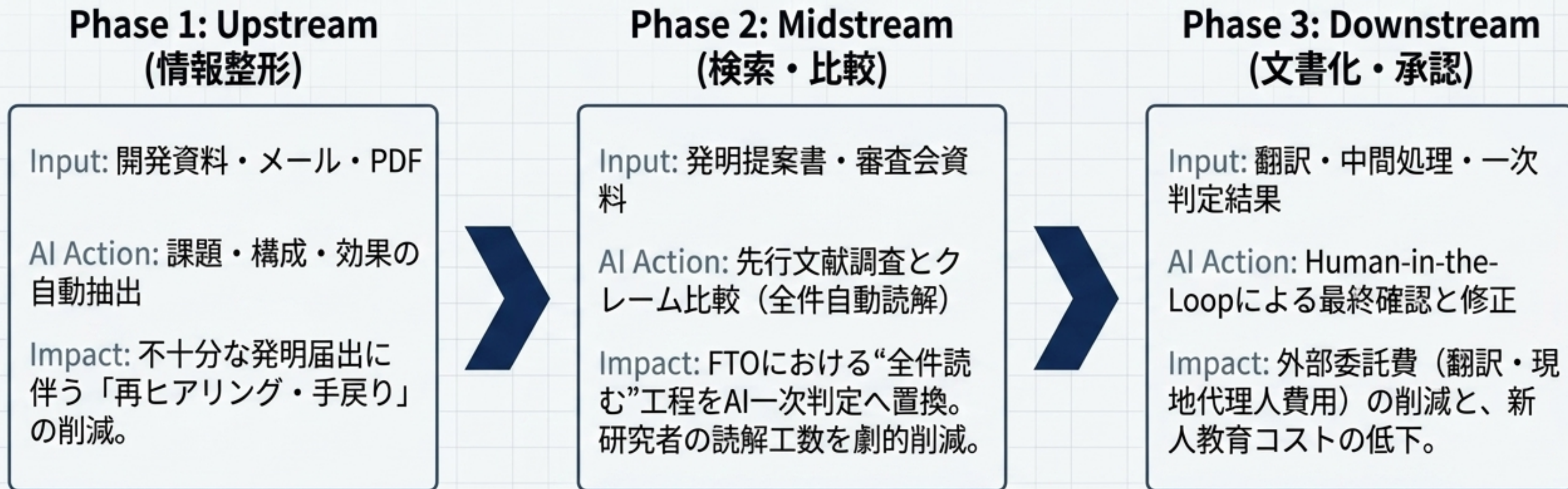
Human-in-the-Loop (HITL) - 最終承認と修正を行う人間の知財担当者（法的責任の担保）。



[HOSTED ON AWS (JAPAN)]

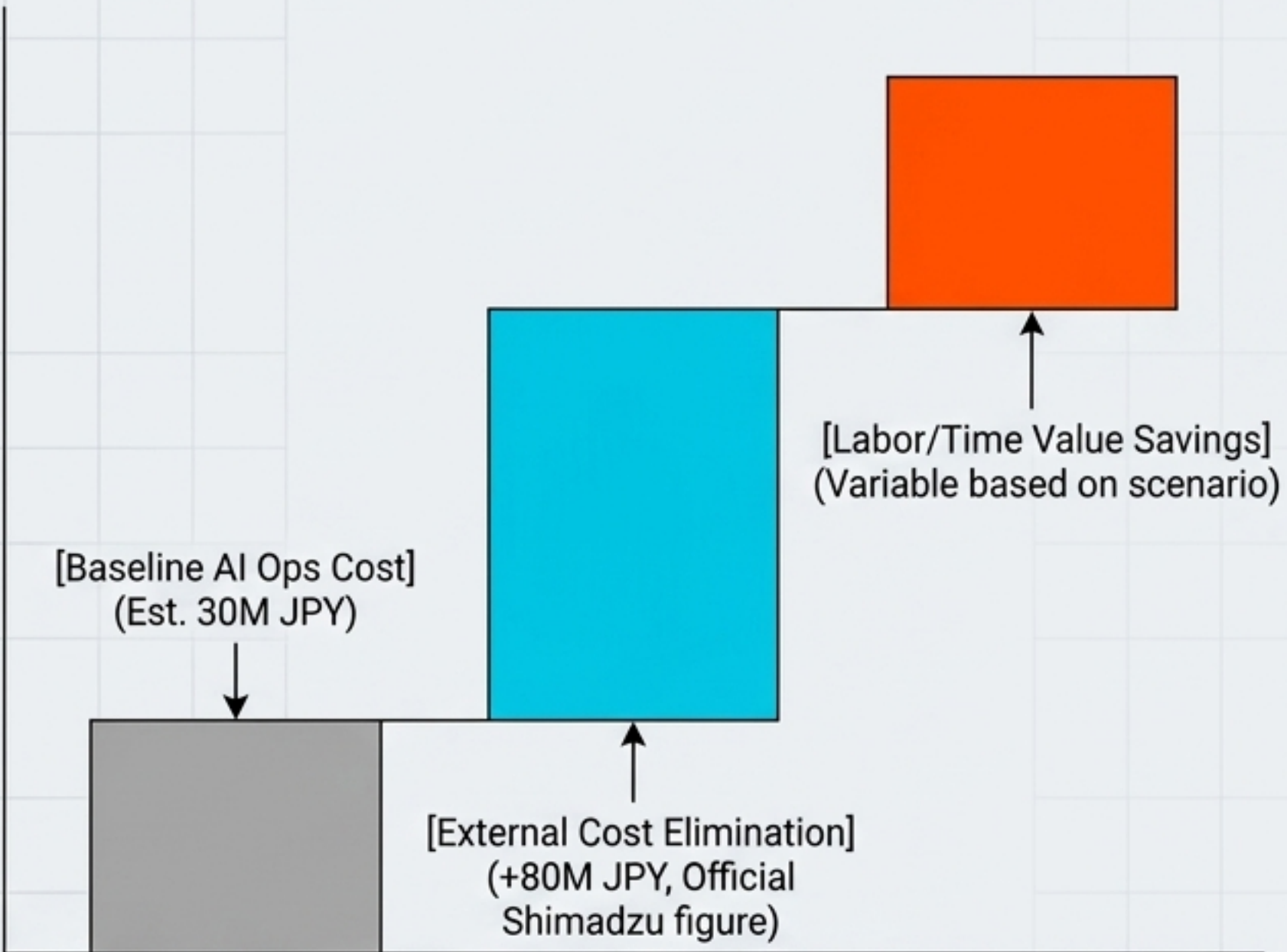
プロジェクトデータは国内AWSに保管。汎用モデル単体の賢さに依存せず、入力と出力を厳格に制御。

# 効率化パイプライン：ワークフローの直列圧縮メカニズム



効率化の源泉は単一作業のスピードアップではなく、プロセス間の「待ち時間」と「情報の再入力」の排除。

# 財務インパクト・ROI試算：コスト削減の源泉と回収シナリオ

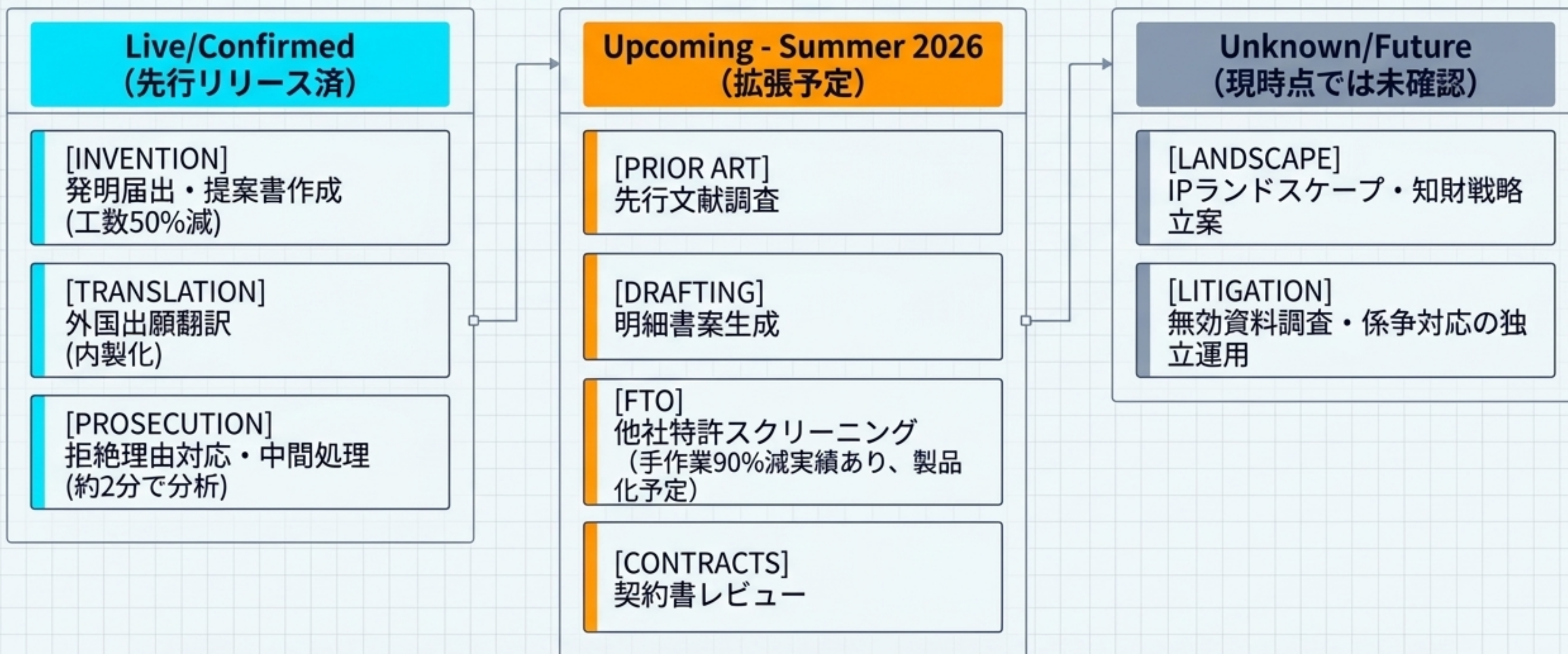


シナリオ (Scenario)	便益 (Benefit)	コスト (Cost)	純便益 (Net Benefit)	ROI	回収 (Payback)
保守 (Conservative)	90百万円	25百万円	65百万円	260%	3.3ヶ月
標準 (Standard)	110百万円	30百万円	80百万円	267%	3.3ヶ月
拡張 (Aggressive)	140百万円	40百万円	100百万円	250%	3.4ヶ月

## Insights Panel

ROIの核心: モデル利用料の安さではなく、「翻訳・OA分析・大量読解」といった外部委託費と多大な労務費が直接削られるため、極めて高い投資対効果 (ROI 250%超) が生じる構造。

# アプリケーション適用範囲：実装フェーズと将来展開



現在のフェーズは「商用SaaSとしての立ち上げ初期」。需要過多による提供開始時期の延期（5月上旬へ変更）が示す通り、高い市場期待とインフラ運用の課題が交錯する段階。

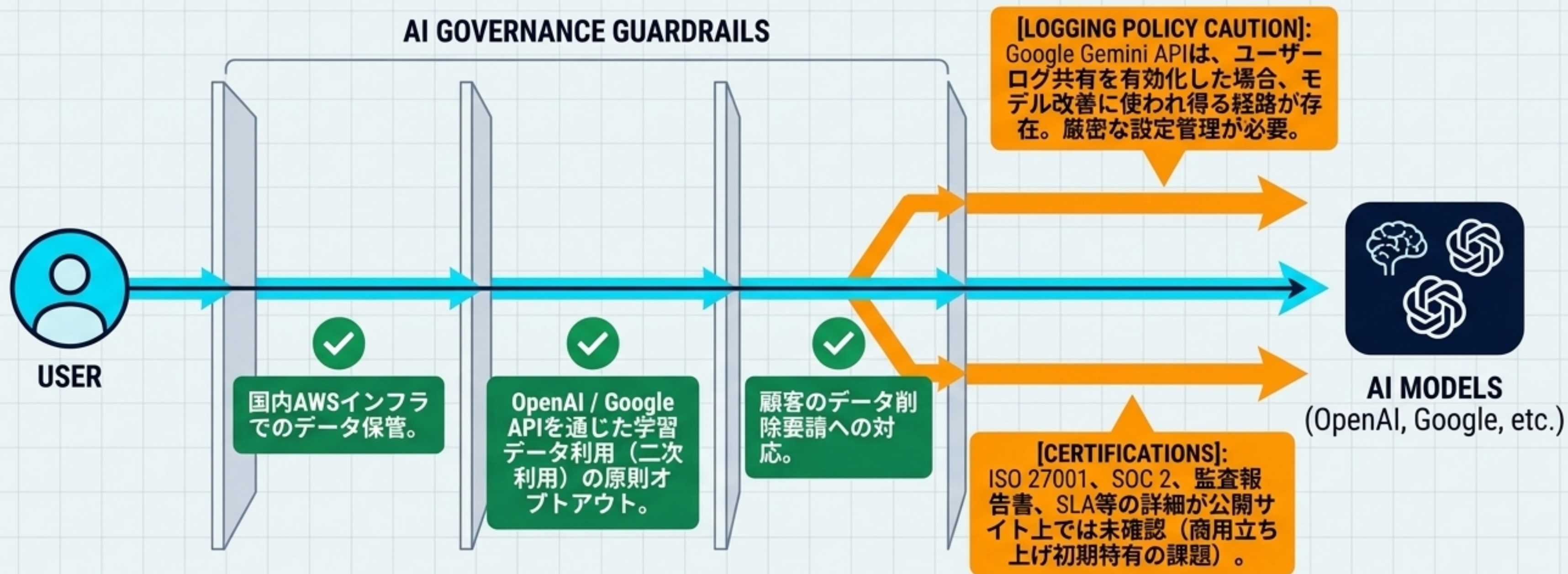
# ベンダー・ランドスケープ：知財AI市場におけるポジショニング

Vendor	Focus	Price Range	Core Strength
Genzo AI (Shimadzu)	End-to-End Workflow Focus	年100万~1500万円	実務フローの完全パッケージ化
AI Samurai ONE	Search & Drafting Focus	要問い合わせ (過去参考 70万円~)	検索・評価・無効資料調査
MyTokkyo.Ai	Entry-level AI Chat & Search	月額2万円/ID~	低価格・法的責任分界の明確さ
PatSnap / IPRally	Global Mature Platforms	Enterprise / 高価格帯	圧倒的なデータ規模とグローバルR&D連携

## Strategic Commentary Panel

Genzo AIの優位性は「アルゴリズム単体」ではなく、翻訳~中間処理~FTOまでを「一つの判断体系」でつなぐワークフロー設計にある。一方で、第三者認証やグローバル運用実績ではグローバルプレイヤーに追いつく余地を残す。

# AIガバナンス・テックスタック：エンタープライズ要件の充足と課題



**Recommendation:** 本格採用を狙う企業が次に確認すべきは「機能」ではなく「監査資料パッケージ（設定証跡・契約添付）」の整備状況である。

# 法的リスクと対策ヒートマップ：安全な運用に向けた4つの防衛線

## 著作権・生成物帰属 (Copyright/Ownership)

Risk: 出願書類や契約案における第三者著作物侵害。

Mitigation: 出典確認・差分確認の必須化。利用規約での権利帰属と保証否認の明記。

## 発明者性の誤認 (Inventor Status)

Risk: AIを発明者と認定できない特許法上のリスク (DABUS事件判例)。

Mitigation: 発明の着想・構成把握に人がどこまで関与したかの「意思決定ログ」の保全。

## 法的判断と責任分界 (Legal Responsibility)

Risk: AIによる法的判断の代行リスク。

Mitigation: Human-in-the-Loopの徹底。最終判断者と責任の所在を規約で明文化。

## 誤情報とバイアス (Hallucination/Bias)

Risk: FTOでの見落とし (偽陰性) による重大な損害。

Mitigation: ゴールデンセット評価の導入、重要案件の二重レビュー、偽陰性優先設計。

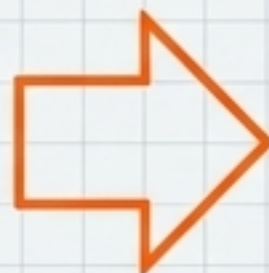
# 人材スキルのパラダイムシフト： 「書ける人」から「見抜ける人」へ

## Before: The Drafter (「書ける人」)

Role: 文書作成、翻訳、先行技術の読み込み。

Value: スピード、正確なタイピング、特許フォーマットの熟知。

Vulnerability: AIによって代替されやすい領域。



## After: The Auditor/Judge (「見抜ける人」)

Role: AI生成結果の妥当性評価、争点抽出、例外処理の設計。

Value: レビュー統制、高度な法的判断、AIのハルシネーション（もっともらしい誤答）の検知。

Future Requirement: FTOや契約レビュー等、損害インパクトが大きい業務において、「どの条件なら自動生成を信じ、どこは二重承認するか」のルールを設計する能力。

教育の重心をシフトせよ。新人が早期に「作業」をこなせるようになる反面、AIの誤りを指摘できる「審査眼」を育成する新たな教育体系（失敗事例DBや認定制度）が急務となる。

# エンタープライズAI導入の3-Horizonロードマップ

## Horizon 1: 短期 (0-12ヶ月) - 業務標準化と統制

**Focus:** 翻訳・中間処理・発明提案書の標準業務化。

**Actions:** プロンプトの版管理、ログ監査、設定固定化。

**KPIs:** 翻訳外注費削減率、OA一次分析TAT、提案書差戻率。

## Horizon 2: 中期 (1-3年) - 高信頼運用への拡張

**Focus:** FTOと契約レビューの本格展開。

**Actions:** 案件重要度に応じた承認ルール、偽陰性評価、海外拠点展開。

**KPIs:** FTO一次判定精度、重大見落とし件数、再レビュー率。

## Horizon 3: 長期 (3-5年) - 経営・戦略との連動

**Focus:** 知財戦略・IPランドスケープ・研究テーマ評価への接続。

**Actions:** 経営会議向けレポート自動化。

**KPIs:** 戦略提案件数、出願質指数、ポートフォリオROIC寄与。

# 経営層・知財リーダーへの5つの推奨事項 (Strategic Prescriptions)

## 1. ガバナンスの共同オーナー化

知財部単独ではなく、CISO・法務を含めた「AIガバナンス委員会」を常設し、未公開発明データの取り扱いルールを策定せよ。

AI Governance

AI Governance

## 2. PromptOpsの制度化

プロンプトを会社の「コア資産」として扱い、版管理・回帰テスト・失敗事例のフィードバックループを構築せよ。

Prompt Versioning

Prompt Versioning

## 3. 3層の教育体系の構築

「発明者向け」「知財担当向け」「レビュー責任者向け」に分け、AIを“見抜く力”を育成せよ。

Education Tiers

Education Tiers

## 4. 外部エコシステムの活用

IP Agentの伴走に加え、セキュリティ監査機関や外部DB事業者との連携を深め、監査耐性を高めよ。

Ecosystem Audit

Ecosystem Audit

## 5. 透明性と説明責任の要求

SaaSベンダーに対し、機能だけでなく、セキュリティ白書、責任分界、監査FAQ等の情報開示を強く求めよ。

Vendor Transparency

Vendor Transparency

AIの導入はゴールではない。それは、知財組織を「コストセンター」から「戦略的価値創造のエンジン」へと再構築するための設計図である。